

# 教会月報

No.539 (2023年11月26日)  
【2023年12月号】  
日本キリスト教団埼玉和光教会  
〒351-0114 和光市本町 15-50

## 不安を超えて喜びの中に

岩河敏宏

聖書：マタイによる福音書1章9節～10節

9 彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上にとまった。10 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。

今年も、アドベント（待降節）からクリスマスに向かう季節を迎えました。教会歴では、アドベントから新しい一年となります。救い主の誕生に関する預言は、旧約聖書にも多く記されており（イザヤ書7章17節、9章6節、ゼカリヤ書9章9節、ミカ書5章2節ほか）、創造主なる神があらゆる命の平安・調和を、常に御心に留めておられることが伺えます。そのことを踏まえて、イエスの誕生に関する記事を各福音書が独自に伝えたい救いの到来（アドベント）を告げているのです。

マタイ福音書が記すイエスの誕生は、ヨセフ、領主ヘロデ、占星術の学者に焦点が当てられていて、ルカ福音書がマリヤや羊飼いたちに焦点を当てているのと対照的です。東の方から来た占星術の学者たちは、ユダヤ人ではありません。この学者たちは異邦人であり、神様との関係は何もないと思われていた人たちです。ところが、そんな異邦人の学者たちが、救い主として生まれた幼子（イエス）を礼拝するため

遙かな道程の旅を続けて来た事を、マタイ福音書は驚きをもって強調します。その一方、ユダヤの領主であったヘロデ王とエルサレムの町に住む人々は、主が預言者を通して言われていた救い主が誕生したという学者たちの報告を受け、不安を抱いたとあるように（2章3節）、救い主の誕生を受け止めることができなかった。ヘロデ王たちの「不安を抱いた」と、学者たちの「喜びにあふれた」は、いずれも互いの感情を表す唯一の言葉です。救い主の誕生という福音（良き知らせ）に遭遇した時、この違いが両者の行動を対照的にしています。

マタイ福音書は、両者の違いを際立たせる事で、福音の広がりや人間の資格や価値を問題にしないと強調しています。ユダヤ社会で祭司長や律法学者が持つ権威のような、既存の何かが福音を得る資格になるわけではありません。それどころか、東方から来た占星術の学者であろうとも、主のしるし（星）によって告げられた救いを求める時、必ずそこに辿り着きます。神に救いを求める者への導きは、ヘロデ王のように権力を持つ者でも阻めません。神が知らせる救いの到来（アドベント）は、占星術の学者のように自分の価値観や視点を基準にするのではなく、異なる価値観とも調和していく道を探る歩みの中に示されます。私たちも、占星術の学者に倣いたい。